

# 7 『環境を守り・育てる300万人行動』戦略

## 【戦略のねらい】

持続可能な社会の構築に向け、すべての県民が環境を守り・育てる活動に取り組む地域社会を創造します。

## 【施策展開の方向】

本県の重要な政策課題の中でも、特に環境問題は県民や企業、団体など各主体の取組を必要とする分野です。

このため持続可能な社会の構築に向け、県民誰もが積極的に環境を守り・育てる活動に取り組む地域社会の創造を目指していきます。

(注)基本計画の関連する章・項・節です。

## ●地球温暖化対策の推進

▶別冊 基本計画[2章 3項 1,5節 2章 4項 2節]

地球温暖化対策を進めるため、温室効果ガス<sup>※1</sup>排出量の削減などに向けて、県民一人ひとりの環境にやさしいライフスタイルへの転換や企業の事業活動の見直し、新エネルギーの積極的な導入などを進めます。

また、県民・企業などの参加による森林づくり活動の支援などを通じた温室効果ガスの吸収源対策にも力を注ぎます。

## ●循環型社会の形成

▶別冊 基本計画[2章 3項 4節]

循環型社会を形成していくため、大好きいばらき エコライフ運動や、エコフロンティアかさまを活用した環境学習を推進するなど、県民、団体、企業、行政が協働し、廃棄物の発生抑制、再使用、再生利用等を進めます。

また、ボランティア不法投棄監視員の協力などにより廃棄物の適正処理を推進します。

## ●霞ヶ浦の水質浄化

▶別冊 基本計画[2章 3項 3,5節]

生活排水対策の徹底等をはじめ流域住民の水質浄化に向けた行動を一層促進するなど、霞ヶ浦環境科学センターを拠点とし、市民、研究者、企業、行政の4者のパートナーシップのもと、霞ヶ浦の水質浄化対策を強力に推進します。

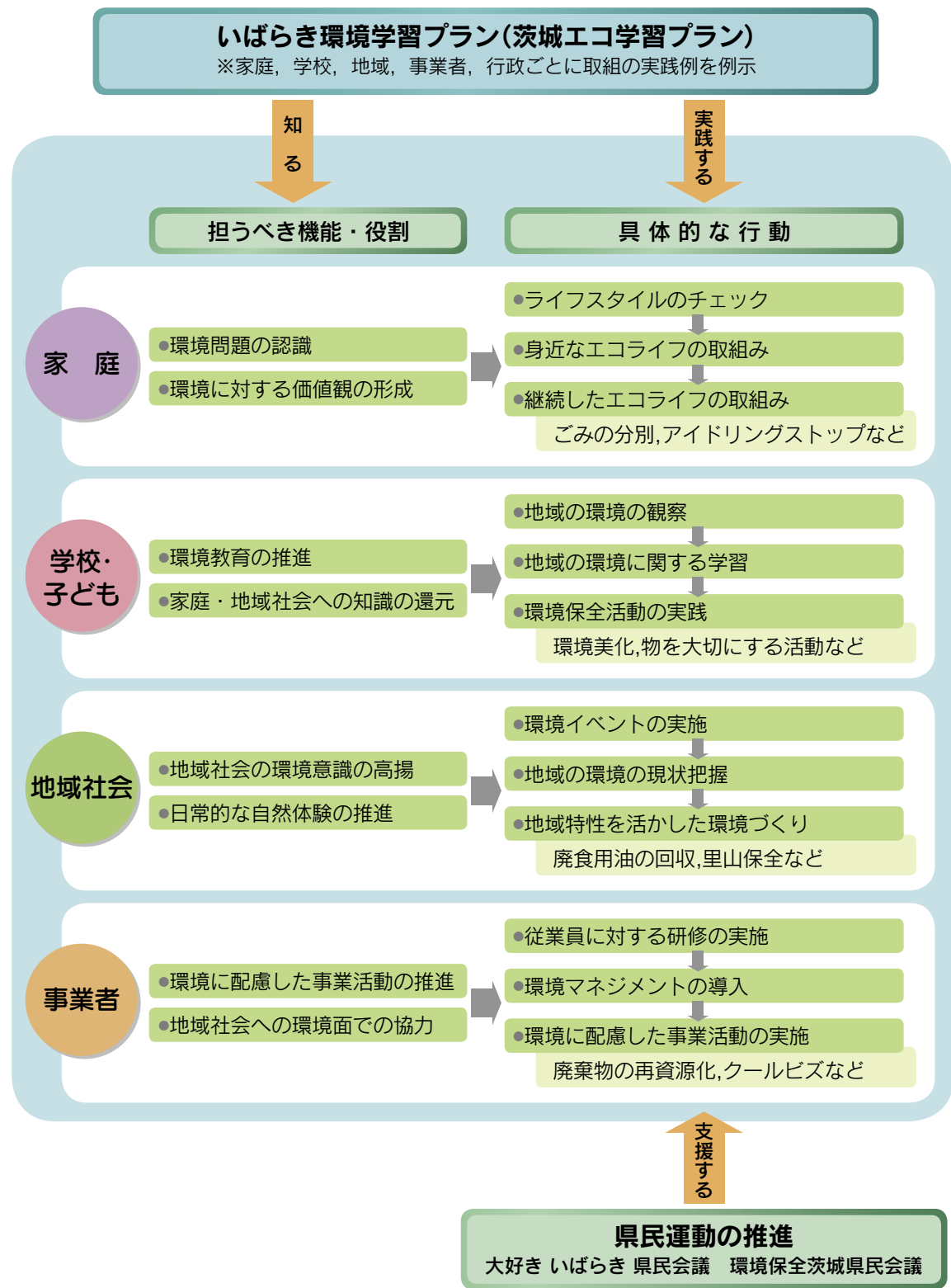
また、霞ヶ浦環境科学センターにおける調査研究や環境学習などの機能の充実を進めます。

### ※1 温室効果ガス

地球の温度は、太陽からのエネルギーと地球から宇宙へ放出するエネルギーのバランスにより、生物の生存にとって適度な温度に保たれている。温室効果ガスは、地表から放出する赤外線を吸収するため、地球を温める働きをする気体のことで、二酸化炭素など6種類が国際的な削減対象とされている。

● 環境保全県民運動の充実・強化 ▶ 別冊 基本計画[2章 3項 1,2,3,4,5節]

県民一人ひとりが深刻化する環境問題を自分の問題として捉え、ライフスタイルを根本的に見直すための行動を促進するため、環境学習プランに基づく実践活動を環境保全茨城県民会議や大好き いばらき 県民会議を中核とする県民運動として展開します。

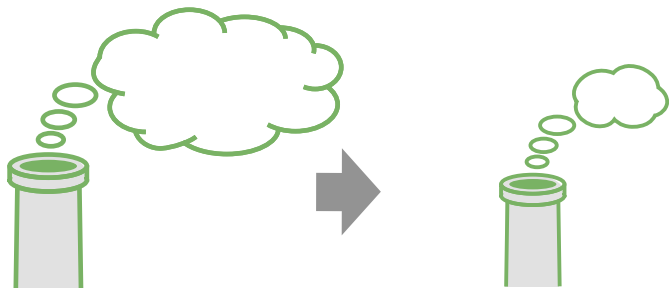


# 7

## 『環境を守り・育てる300万人行動』戦略

### 【数値目標】

#### ● 温室効果ガス排出量(1990年比)

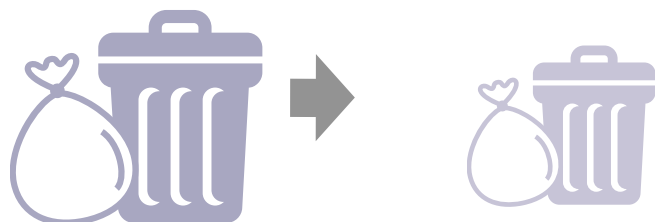


現状値(H14): $\Delta$ 2.3%

目標値(H22): $\Delta$ 4.6%

※地球温暖化防止への取組状況を示す指標であり、国内における実質削減分4.4%を上回る水準を目指します。

#### ● 1人1日当たりのごみ(一般廃棄物)排出量

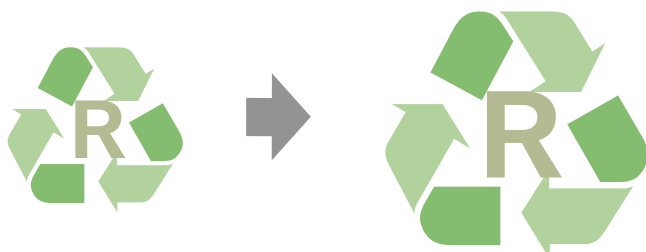


現状値(H15):989g

目標値(H22):890g

※ごみの排出抑制に対する県民の取組状況を示す指標であり、国の基本方針に則して、平成9年度に対し5%以上の削減を目指します。

#### ● 産業廃棄物資源化率

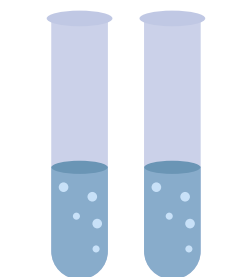


現状値(H15):85%

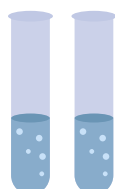
目標値(H22):87%

※産業廃棄物リサイクルへの取組状況を示す指標であり、国の基本方針に則して、平成9年度に対し6ポイントの増加を目指します。

### ●霞ヶ浦の水質(COD<sup>※1</sup>)



現状値(H16):  
7.9mg/リットル



目標値(H17):  
7.4mg/リットル

※霞ヶ浦の水質浄化への取組状況を示す指標であり、平成18年度に行う霞ヶ浦に係る湖沼水質保全計画(第5期)の策定に併せて見直す予定です。

### ●環境学習・環境保全活動年間参加者数(延べ人数)



現状値(H16): -



目標値(H24): 100万人

※環境学習や環境保全活動の実践状況を示す指標であり、県民延べ100万人の参加を目指します。

#### ※1 COD

水中の有機物を酸化剤で化学的に分解したときに消費される酸素の量。湖沼、海域の汚濁状況を示すもの。